心臓の血管検査（QFR）を受けられた患者様へ 大切なお知らせとお願い
「当院における QFR（定量的冠血流比）の初期成績に関する研究 情報公開について」

下記の研究について、当院では患者さんの診療情報を用いた研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報を後方視的に解析するものであり、患者さんに新たな負担やリスクが生じるものではありません。

本研究の対象となる患者さんで、ご自身の診療情報が研究に使用されることを望まれない場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。ご連絡いただかなくても、患者さんが不利益を被ることは一切ございません。また、本研究への参加を拒否された場合でも、今後の診療に影響することは一切ありません。

【研究課題名】

当院における QFR（定量的冠血流比）の初期成績と臨床的有用性
～中等度狭窄病変における評価と臨床工学技士の役割～

【研究責任者】

大分県厚生連鶴見病院　診療支援部臨床工学技術科 幸　智彦

【研究の対象】

2025 年 2 月から 2026 年 8 月までの間に、当院にて冠動脈造影検査（CAG）を施行され、QFR（定量的冠血流比）による機能的虚血評価を実施した患者様　22 例 24 病変

【研究の背景・目的】

冠動脈の狭窄病変が心臓の血流にどの程度影響を及ぼしているか（虚血の有無）を評価する方法として、従来はプレッシャーワイヤーという専用のカテーテルを用いる方法（FFR：冠血流予備量比）が行われてきました。近年、この検査に代わり、通常の冠動脈造影の画像データを解析することで、追加のカテーテル操作を必要とせずに血流評価を行うことができる QFR（定量的冠血流比）という新しい解析技術が登場し、臨床応用が進んでいます。

QFR は低侵襲な評価方法である一方、その解析精度は造影画像の質に大きく依存するという特徴があり、画像選択の技量が結果に影響を与える可能性があります。本研究は、当院における QFR 導入後の初期実績を後方視的に検討し、特に判断が難しいとされる中等度狭窄病変における臨床的有用性と、解析精度向上のために臨床工学技士が果たすべき役割・課題を明らかにすることを目的としています。

【意義】

本研究により、中等度狭窄病変における治療方針決定（血行再建術か保存的加療か）に QFR がどの程度有用であるかを検証することができます。また、解析不能例や精度低下の要因を明らかにすることで、今後の画像選択方法の改善や、臨床工学技士による解析支援体制の構築に寄与し、より質の高い医療の提供につながることが期待されます。

【研究の方法・期間】

研究デザイン： 後方視的観察研究

対象期間： 2025 年 2 月～2026 年 8 月

方法： 上記期間に当院で実施された QFR 測定に関して、診療録および検査データ（患者背景、狭窄度、QFR 値、実際の治療方針等）を後方視的に収集し、統計学的に解析します。本研究では新たな検査や治療の追加、通常の診療内容の変更は一切行いません。

【個人情報に関する配慮・臨床情報の保存について】

本研究で使用するデータは、患者様の氏名、住所等の直接的な個人情報を削除し、研究用の番号（症例番号）に置き換えた上で匿名化処理を行います。学会発表や論文公表の際にも、個人を特定できる情報は一切含まれません。

収集したデータは、電子媒体にて厳重に保管し、研究終了後も個人情報保護の観点から適切に管理いたします。

【患者さんの利益と不利益】

本研究は既存の診療録・検査データを用いた後方視的研究であり、患者様に新たな検査や治療、来院を求めるものではないため、本研究への参加に伴う身体的な負担やリスクは生じません。

また、本研究への参加・不参加の意思にかかわらず、患者様が現在および将来受けられる診療内容に影響が及ぶことはございません。

なお、本研究の結果、患者様に直接的な利益が生じるものではありませんが、得られた知見は今後の QFR 活用および医療の質向上に役立てられ、将来の医療を受けられる方々にとって有益な情報となることが期待されます。

研究対象となることを希望されない場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。ご連絡いただいた場合、データを研究対象から除外いたします。なお、除外のご連絡がない場合は、本研究にご協力いただいたものとさせていただきます。

【お問い合わせ先】

大分県厚生連鶴見病院　診療支援部臨床工学技術科
担当者：幸　智彦（臨床工学技士）
電話番号：0570-06-7111（時間：平日 8:30～17:00）
住所：〒874-8585　大分県別府市緑丘町 12 番 1 号